

# Market Flash

発表日: 2019年6月11日(火)

## マインド不況が続く

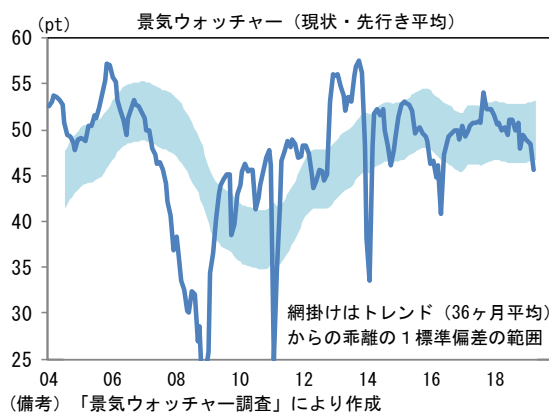
～株価に先行性を有する景気ウォッチャーも警戒領域に～

第一生命経済研究所 調査研究本部 経済調査部  
主任エコノミスト 藤代 宏一 (TEL: 03-5221-4523)

- ・日経平均は底堅い企業業績を背景に、先行き12ヶ月は23000近傍で推移しよう。
- ・USD/JPYは米利下げ観測が浮上する中、先行き12ヶ月で105へと下落しよう。
- ・日銀は現在のYCCを2020年末まで維持するだろう。
- ・FEDは2020年に利下げに転じる見込み。ただしリスクは前倒し。

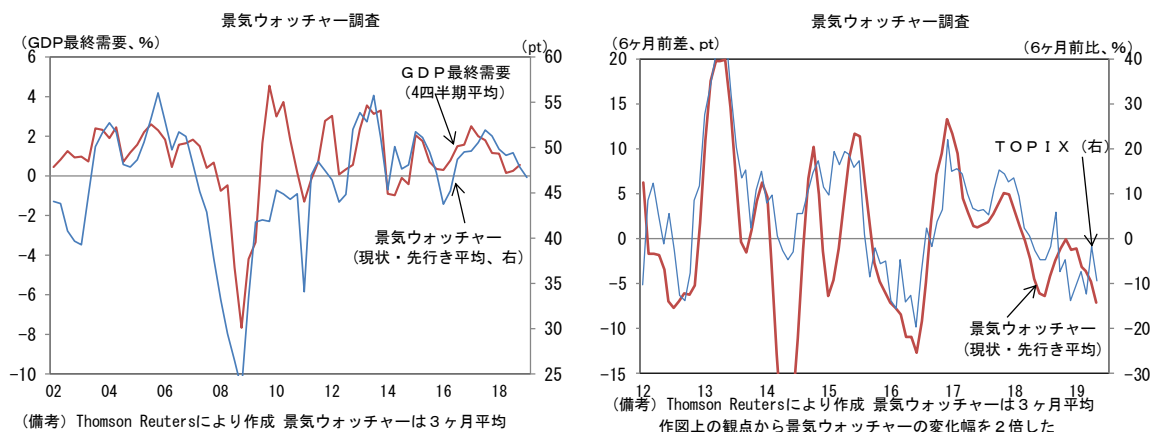
### < #景気ウォッチャー #株価先行指標 #GDPも低調見込み >

- ・昨日発表された5月景気ウォッチャー調査(季節調整値)は現状判断DIが44.1へと前月から1.2pt悪化し、先行き判断DIも45.6へと2.8p悪化した。双方とも2016年6月以来の低水準に到達し、両者の平均値のトレンドからの乖離は1標準偏差下限を突破。人々が肌で感じる景況感が冷え込んでいることを浮き彫りにした。米国の通商交渉の不透明感に加え、消費増税への懸念が大きいのと思われる。



- ・この指標は日本経済をリアルタイムに把握するうえで優れており、実際、GDP最終需要(GDP成長率から在庫投資寄与度を控除したもの)や株価に一定の連動性を有する。周知のとおり1-3月期GDPは輸入減少、在庫増加によってバランスの悪い高成長(前期比年率+2.2%)が達成されたが、最終需要でみた姿はそこまで強くなく、日本経済が減速基調にあることを示している。4-6月期以降、最終需要でみた成長率加速に期待したいところだが、4・5月の景気ウォッチャーをみる限り、楽観視はできない。
- ・足もとで反発基調にある株価についてもダウンサイドリスクが高まっていると判断せざるを得ない。筆者はシリコンサイクルの好転を前提に再度の株価上昇を見込んでいるものの、景気ウォッチャー

と株価に一定の連動性があることを踏まえると、先行きは心許ない。



### 【国内株式市場・アジアオセアニア経済指標】

- 日本株は前日終値付近でもみ合い（10:00）。欧米市場に先立って、米国のメキシコへの関税発動見送りを反映していたことから、新規の材料に乏しい展開となっている。

### 【欧米経済指標他】

- 欧米で重要な経済指標の公表はなかった。

### 【海外株式市場・外国為替相場・債券市場他】

- 前日の米国株は続伸。FEDの利下げ観測が金融相場をサポートするなか、メキシコへの関税設定見送りが好感された。WTI原油は53.26ドル（▲0.73ドル）。
- 前日のG10通貨はUSDが全面高。米長期金利上昇を横目に主要通貨に対してUSD買いが優勢。USD/JPYはアジア時間に108半ばで取引を開始すると概ね同水準で推移した。
- 前日の米10年金利は2.148%（+6.7bp）で引け。メキシコへの関税発動を受けて逃避需要が後退。欧州債市場（10年）はドイツ（▲0.219%、+3.8bp）、フランス、イタリア、スペインが金利低下。

本資料は情報提供を目的として作成されたものであり、投資勧誘を目的としたものではありません。作成時点で、第一生命経済研究所調査研究本部経済調査部が信ずるに足ると判断した情報に基づき作成していますが、その正確性、完全性に対する責任は負いません。見直しは予告なく変更されることがあります。また、記載された内容は、第一生命保険ないしはその関連会社の投資方針と常に整合的であるとは限りません。